

# 平成23年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フカガナ フカガ トモ  
氏名 福永 智子

研究期間 平成23年度

研究課題名 愛知・岐阜・三重県下の市町村立図書館における司書採用の実態調査

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	福永 智子	文化情報学部	教授
研究分担者	山本 昭和	文化情報学部	准教授
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

### <背景>

図書館司書の採用形態は多様化しており、把握が困難になっている。

マイナス要因： 地方公共団体の緊縮財政や市町村合併の推進による影響

プラス要因： 子ども読書推進計画の策定等による図書館事業の高度化

### <目的>

本研究では、愛知・岐阜・三重県下の市町村に設置された図書館において、図書館司書の採用がどのように行われているのか、その実態を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

(1)3 県下の市町村における公立図書館および学校図書館について、司書採用の実態を把握するためアンケート調査を実施した。調査対象は公立図書館を設置する市町村(調査 A)、および学校図書館を設置する市町村(調査 B)のそれぞれ教育委員会とする。

### (2)アンケートの内容

- ①過去5年間における司書採用試験の頻度と人数、採用試験の時期。
- ②司書の雇用の身分について(専任職員[公務員]/非常勤職員[嘱託職員])。
- ③公務員の場合の採用枠(一般行政職枠/司書枠)、採用区分(大卒/短大卒)、司書枠採用の場合、専門試験における図書館情報学試験の有無、直近の採用試験の年度。
- ④市町村の図書館職員の人数、民間事業者導入の有無等、関連項目。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

#### ■ 調査の概要

[調査A] 公立図書館を設置する105市町村の教育委員会に対してアンケート調査を実施した。調査時期は平成24年1月、回収数88(愛知41、岐阜31、三重16)。回収率84.7%。

[調査B] 学校図書館を設置する128の全市町村の教育委員会に対してアンケート調査を実施した。調査時期は平成24年1～3月であり、現在回収中である。

そこで以下では、調査Aの集計結果について報告する。

#### □ 公立図書館職員数、運営方法等について

- 公立図書館数の平均は2.34館。1～3館の市町村が全体の85%であった。
- 専任職員数は、愛知県12.39名、岐阜県3.76名、三重県5.19名であった。その一方で、非常勤職員や臨時的職員の数も多い。
- 図書館の運営方法は、直営が68.6%、民間事業者への一部業務委託が12.8%、指定管理制度18.6%。直営の割合が7割弱でもっとも多い。岐阜県・三重県では8割以上の市町村が、愛知県は約5割が直営であった。

#### □ 専任職員の採用実態について

- 直営の専任職員の採用試験の形態(過去5年間の実績)は、司書枠採用が名古屋市含む5自治体(5.7%)。一般行政職採用の自治体は28(31.8%)。採用のない自治体は36(40.9%)。
- もっとも最近に図書館に配属となった専任職員の採用枠は、司書枠が7自治体(8%)、一般行政職採用が54(61.4%)。
- 司書枠の専任職員と嘱託職員の採用試験の実施時期や試験内容その他についても結果が得られた。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

① 公立図書館	② 学校図書館	③ 司書職	④ 採用試験
⑤ 図書館行政	⑥ 東海地方	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

調査Bのアンケートがまだ回収中であるため、回収が終了してデータ入力と分析が終わった時点で、論文を執筆し、専門誌等に投稿する予定である。